三菱鉛筆

インドに合弁会社

現地生産で市場拡大狙う

三菱鉛筆株式会社（数原滋彦社長、東京都）は、9月26日開催の取締役会で、インドの筆記具メーカーLINC LIMITED（本社：インド、Managing Director and CEO：Deepak Jalan）との共同出資による合弁会社の設立を決議した。

設立予定の合弁会社は連結子会社となる予定。合弁会社設立日は来年1月（予定）、事業開始日は同年7月（予定）。合弁会社の資本金は日本円換算で約3億4600万円。出資比率は三菱鉛筆51%、LINC LIMITED49%。名称は「unilinc Private Limited」（予定）、所在地はインド共和国グジャラート州。

インドにおける合弁会社の設立について、「弊社は『ありたい姿2036』に掲げる〝世界中あらゆる人々の個性と創造性を解き放つ〟というコンセプトを実現するために、『中期経営計画2022－2024』における重点方針の一つとして『筆記具事業のグローバル化』を設定している。その取り組みの一つとして、今後さらなる経済成長が期待されるインド市場における現地生産化を可能にする目的で合弁会社を設立するに至った」という。

合弁会社設立により、インドでの商品供給体制の強化を図り、シェア拡大とブランドの浸透を図る。また、インドにおける生産体制の構築に加えて、原材料調達の拠点として活用することで、グローバルな視点で捉えたサプライチェーン機能のさらなる強化につなげていく。

ぺんてる

混色のしやすさ追求

アートクレヨン発売発表会

㊤登壇者によるフォトセッション㊦「アートクレヨン」

ぺんてる株式会社（和田優社長、東京都）は、10月11日に一般発売を開始した「アートクレヨン」の一般発売発表会を、9月25日に東京都港区のPaola Lenti Tokyoショールームで開催した。

「アートクレヨン」は、「大人が自由に描く豊かさを取り戻す」ことを目標に、181万人のチャンネル登録者数を誇る画家で美術系YouTuberの柴崎春通氏と共同開発した、大人が日常で描くことに寄り添う画材。クレヨンの手軽さで、油絵のようなタッチの柄を描くことができ、筆圧によって線幅を自在にコントロールできる柔らかなテクスチャで、鮮やかなまま色を混ぜ合わせたり、何度も重ねたりして、多彩な表現を愉しめる。

昨年11月より実施したクラウドファンディングでは、開始48時間で目標金額の300万円を達成、最終的には目標の626%に上る支援総額1880万円を達成した。

商品価格は8色セット3300円（税込）、単色418円（税込）。初回ノベルティとしてアートクレヨンを愉しむためのスケッチブックを用意している。

発表会では、製品戦略本部製品戦略部マーケティング課・山田栞さんが商品説明を行い、「より多くの人たちがアートを体験するためにつくられた心おどる色鮮やかさと描き心地が革新的な画材」と紹介した。

「アートクレヨン」は、混色のしやすさを追求し、かつ重色の中でも難しい暗い色の上に明るい色を重ねやすい性能を実現したことで、油絵のような重厚な表現を可能にした。顔料を均一に分散させる独自技術により暗い色も明るい色も鮮やかな発色になり、混色をしても色鮮やかに仕上がるため、少ない色数で多彩な表現ができる。また、紙に色が載りやすく定着性に優れているためカスの出が少なく、周りを汚す心配がなく描くことができる。

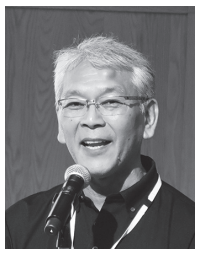
商品プレゼンテーションの後、柴田画伯からのビデオレター、編集者・評論家の山田五郎氏とartwine.tokyo代表の永目裕紀氏、ぺんてる執行役員サステナビリティ推進部部長の田島宏氏による「大人の日常とアートについて」と題したトークセッションが行われた。

なお、「アートを日常に」という共通理念のもと、アート体験を提供するartwine.tokyoとコラボレーションにより、10月26,27日に汐留パークホテル東京で、アートクレヨンの特徴である「キャンバス上で重ね塗りすることで混色を自在に生み出せる」「指で擦りながら創り上げるぼかし表現」といった性質を存分に活用したワークショップが開かれる。

TRADE MARK
月印紙製品
株式会社ヤマガタ

創立100周年を祝う

京都紙文具第一チエン



挨拶する竹内理事長

協同組合京都紙文具第一チエンストアー（竹内裕貴理事長）は、9月20日午後7時から、京都市中京区の新風館内のエースホテル京都で、「おかげさまで100周年！チエンで繋げよう京都の未来」と銘打ち、100周年記念パーティーを開催、組合員と社員、仕入先、メーカーなど101人が出席、100周年を盛大に祝った。

祝宴は、京都花街・宮川町の舞妓さんの華やかな祝舞の披露で始まり、島嘉秀理事（長角堂）、土田正行（ツチダ）氏が司会進行、祝電披露の後、竹内理事長は「今日は大谷選手が50本塁打、50盗塁を成し遂げた記念日でもある。祝宴には会員店の従業員と、仕入先やメーカーにも出席頂いている。当組合の母体は1924年（大正3年）発足の京都紙商第一チエンストアーで、大阪の大規模量販店に対抗するために共同仕入れを行うボランタリーチェーンとしてスタートした。組合の先駆けであったので、『第一』を冠したと聞いている。戦争、不況など時代の変遷を乗り越え、現在は20社のメンバーで運営している。組合運営については『メンバーズメリットの探求』をスローガンに進めてきた。経営や販売に関することや商品知識を学ぶことができて良かった、仲間がいて良かった、などメンバーでいる利点があるから今日まで続いていると思う。限られた時間だが、交流を深め、楽しんで欲しい」と挨拶。挨拶の中で、ムラカミビジネス・村上龍氏の社長就任を披露、同氏がキャンペーンの賛助会員9社を紹介。

賛助会員を代表してアケボノクラウン・松本圭司社長が「昨年、弊社の京都支店が誕生して10カ月。チエンの皆さんの力をお借りしながら5周年、10周年を迎えることができるようお役立ちしていきたい」と述べ、乾杯の音頭を取り、祝宴に入り、100周年を祝って歓談の輪が広がった。最後に土田信行副理事長の閉会挨拶で閉じた。

人から人へ心を伝える
ハート紙製品
ハート株式会社

同組合は、1924年に10人のメンバーにより母体である京都紙商第一チエンストアーを創立。共同仕入を柱にオリジナル商品の共同販売、情報交換、経営研修などの事業を行う。終戦後は13人のメンバーで組合を再建。1949年に協同組合京都紙文具第一チエンストアーを設立、同年8月6日に設立総会を開催、正式にスタートした。

11月15日（いいインコ）は
「いいインコの日」
sedia
since 1932
www.sedia.co.jp

紙製品新聞社

田渕典夫代表が死去

去る9月26日、弊社代表田渕典夫（ふみお）が、脳内出血により77歳で逝去した。

なお、葬儀は故人の遺志により近親者が相寄り家族葬で執り行った。

故人は昭和22年7月13日大阪府高槻市生まれ、現・大阪府立工芸高校卒業後、繊維会社に入社、その後、厳父の死去により紙製品新聞社に入社、父業を継承。新聞発行に加えて、新たに国際見本市や市場視察を目的とした米国（ニューヨーク）や欧州、東南アジアなどの海外市場ツアーを企画、実施し、業界各社の国際化推進を提唱、業界の発展に尽力した。

平成元年「紙製品新聞」発行35周年を機に、題号を「CLIPS」へ変更。「情報をクリップする」をキャッチフレーズに、題号ロゴや紙面の刷新を図った。カラー表紙の「ペーパーアートギャラリー」は、製品に感性価値の付加を提唱したもので、作家の多彩なアート作品を紹介した。

また、情報発信の精度を上げるため平成3年から編集の内製化を実現。平成11年6月に専門紙3社による有限会社文房具屋さんドットコムを設立。一般ユーザー向けの情報発信サイト「文房具屋さん.com」を開設し、商品情報やキャンペーンなどの情報発信や市場調査、文具知識能力検定（文具検定）実施や文具検定問題集の出版などを手掛けた。

匠の技 ステンレス製
高級つめきり
ワンタッチで跳ね上がる
開口部
使いやすさとデザイン性を追求した無駄のないつめきり
テコ表面中央部分
超微粒ヤスリ付き
美しい暮らしを創る装粧利器刃物
グリーンベル
http://www.greenbell.net/

SAKURA COLORING THE FUTURE
PIGMA® HOLDER
ピグマ®ホルダー
線を選び、輝きを纏う
PIGMA®一進化するDNA
Navy Blue
Graphite
Black
Crimson Red
「ピグマ」「PIGMA」は株式会社サクラクレパスの登録商標です。
1 好みの軸色の PIGMA® HOLDER を選ぶ
2 好みのペン先の PIGMA® を選ぶ
Point
低重心で疲れにくく、安定した操作性を実現
アルミニウム × 真鍮 の本体軸
Point
ピグマ®を入れても握りやすい細軸設計
クルクル
まわして装着
キャップの天面には桜型の刻印入り
世界初！ 水性顔料サインペン PIGMA®
SAKURA MICRON PIGMA 05 水性耐水性
用途に合わせて選べるペン先
小売価格 ¥220（本体価格 ¥200）
ピグマ 03 細かいところに 手帳・ノートに書く
ピグマ 1 はっきり見やすく メモに書く
ピグマ FINE とめ・はね・はらいで美文字に ハガキに書く
株式会社サクラクレパス
https://www.craypas.co.jp